

平成25年度

学校関係者評価報告書

平成26年9月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■平成25年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、学校が行っている教育活動の自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは職業実践専門課程への申請に伴い、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置して、自己点検・評価報告書をもとに、本校の学校運営や教育活動に対してご議論いただき点検・評価していただいています。委員会では、様々な立場を代表する委員の皆様から、本校が行っている職業教育の課題や教育環境の整備について多くのご意見とご提案を頂いています。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の点検・評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

平成26年9月29日（月）12:00 ～ 15:30

筑波研究学園専門学校 6号館大講義室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員 松崎 保裕 五籃会会長

中村のり子 五籃会副会長、(株)中村自動車工業専務取締役

吉川 一英 輝峰同窓会会長、(株)協英代表取締役

飯島 郁代 輝峰同窓会、公益財団法人茨城県教育財団

豊田 高久 筑波銀行執行役員本店営業部長

辻 信行 ツジ電子株式会社代表取締役、茨城県研究開発型企業交流協会会長

羽澄 順二 元(株)カスミ取締役、(株)つくば研究開発支援機構監査役

渡邊 壽恵 元つくば秀英高校校長、元筑波研究学園専門学校副校長

古森 貞弘 元県立牛久高校校長、筑波研究学園専門学校第5代校長

浅田 順 (学)霞ヶ浦高等学校理事・元校長、石岡市教育委員会委員長

齋藤 鐵哉 (独)物質・材料研究機構名誉顧問、(一財)総合科学研究機構センター長

佐藤 繁 (一財)総合科学研究機構理事、元東北大学理学部長

○学校関係 西谷 隆義 (学)筑波研究学園 理事長

柿崎 明人 筑波研究学園専門学校 学校長

鈴木 一男 筑波研究学園専門学校 電子機械工学科長

伊能 正登 筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科長

大野 克典 筑波研究学園専門学校 建築環境学科長

水越 武 筑波研究学園専門学校 経営情報学科長

横瀬 和子 筑波研究学園専門学校 医療情報学科長

大森 淳子 筑波研究学園専門学校 幼児保育学科長

野口 孝之 筑波研究学園専門学校 教務・学生部長

赤羽根隆之 筑波研究学園専門学校 企画部長

葛綿 賢二 筑波研究学園専門学校 進路渉外部長

志賀 宏 筑波研究学園専門学校 事務部長

- (2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠
- (3) 評価方法：平成25年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 学校関係者評価の項目

次の10項目の学校自己点検・評価について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の4段階で点数評価しました。
4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切
- (2) それぞれの評価項目に関して、委員会で述べられた意見、要望なども記載しました。

5. その他

平成25年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目1 教育理念・目標

評価：4

- ・学校の理念や目標は設立よりゆるぎなく設定されており明確である。今後もぐらつくことなく進めてほしい。
- ・この教育理念・目標の自己点検に関する評価は概ね適切である。
- ・この学校が職業実践専門課程の認定を受けたことは保護者宅に送付される機関誌などでも紹介されているものの、より多くの保護者に周知されるよう一層の広報活動に期待したい。

項目2 学校運営

評価：4

- ・運営方針・事業計画の策定、理事会・評議員会の承認までの流れが明確である。
- ・運営組織や諸規則、規程等の整備面は問題ないといえる。
- ・情報公開、情報システム化とも現時点では問題なく機能しており、更なる改善に向けての試みが伺える。
- ・評価委員向けに自己点検・評価報告書の見方についてガイドラインがあるとよい。

項目3 教育活動

評価：3

- ・教育連携を行う企業側の意見として、学校では、インターンシップや現場実習での経験を教育に結びつけた指導をぜひお願いしたい。
- ・企業側は、学校と教育連携を行うことで、最近の学生がどのような考えを持っているのかを理解できる機会になると考えている。
- ・産学連携の実績を持つこの学校が、自己点検において、教育活動を高くない評価にしたことは、現状を厳しく評価することで一層の充実を図っていくための決意と考えられる。
- ・学校の自己点検を見ると、職業教育（インターンシップ、実技・実習等）への取り組み状況は学科によって差が生じていることが伺える。
- ・教育活動の評価は、現状を厳しく捉えている学校の考え方に賛成である。
- ・教育活動を実践していくためには、教師力、指導力が極めて高く評価されるものになっていくと思われる。全学科とも温度差なく、より魅力ある教師力、指導力が指導者研修等で構築されるよう努力していただきたい。
- ・ものの見方がわかり、根性があるといった人間教育面での教育も必要であり、資格や技能ばかりに偏らない教育をお願いしたい。

項目4 学修成果

評価：3

- ・学修成果はそれぞれにおいて実績をあげており努力されていると思えるが、学校の自己点検評価の捉え方からすると、教育活動と同様、厳しく評価して一層の充実を図っていくという考えが感じ取れる。
- ・学校全体で見ると実績は上がっているが、学科単位でみていくと指導に差がある。このようなことから学校として相対的にとらえると一層の取り組みが必要である。
- ・専門学校で同窓会という言葉が謳っている学校はおそらく他にはない。卒業生がこの学校を母校という意識を持てるような専門学校であることが望ましい。

項目5 学生支援

評価：4

- ・進路や就職、課外活動等の支援体制は整備されている。
- ・専修学校法では保健室の設置は義務付けられていないが、健康管理に関する支援として保健室を設置、学校医も置いているという点は評価できる。
- ・卒業生への支援として同窓会組織を整備している。学校を卒業したら終わりという関係ではない点で同窓会組織は非常に良い。活発に活動していくことを期待したい。

項目6 教育環境

評価：4

- ・教育施設や設備は整備されていると認識している。
- ・インターシップや現場実習を行っている学科の教育連携体制は整備されている。
- ・防災に対する体制は十分整備されている。

項目7 学生の受け入れ募集

評価：4

- ・学生募集状況や体験入学の参加状況が良好であることは、学校の教育成果が正確に入学対象の学生や保護者に伝わっているからと感じられる。
- ・学生募集担当者及び各学科の教員とも、高校訪問、体験入学、高校ガイダンス等においてタイムリーな情報提供を行っている。一方で、ネット社会への対応としてホームページの一層の充実が課題である。
- ・学生募集活動において更なる課題を持って取り組むことは評価できる。

項目8 財務

評価：4

- ・理事会、評議員会にて承認を得ているため適正であると考ええる。
- ・学生に対しての奨学金の整備等を含め、学校として適正な財務状況になっているかという視点では評価ができる。
- ・学生数確保が財務には関わってくる。財源確保という意味で、この学校の教育内容が高く評価され多くの学生が集まることを望む。

項目9 法令等の遵守

評価：4

- ・法令、専修学校設置基準の遵守については適正である。
- ・この項目での「個人情報保護の対策」は、学校として個人情報保護の対策ができているか否かであり、学生への指導は別の問題として捉える必要がある。

項目10 社会貢献・地域貢献

評価：4

- ・学科によってはそれぞれの特性を活かしたボランティア活動が活発であるが、地域の広報活動等で知的部分による活動（広報ポスター、チラシ製作等）も盛んであることから、これらを含めて考えてよいのではないか。
- ・相対的に見てボランティア活動等、社会貢献・地域貢献を活発に行っている。